

山口七夕会通信 VOL.3

発行：山口七夕会事務局
(山口市企画経営課内)
山口市龜山町2-1
TEL083-934-2746
FAX083-934-2642

第9回会員交流会を開催しました



講師の岩見隆夫氏

加された会員の方は真剣に耳を傾けられていました。

講演会後は、講師の岩見氏を交え懇親パーティーを開催し、皆さん大変楽しいひとときを過ごされたのではないのでしょうか。

去る、12月2日に第9回山口七夕会会員交流会を、東海大学校友会館で開催し、約60名もの会員の方が集まれ、会員それぞれ交流を図りました。

今回の交流会では、新聞紙面やテレビ等で活躍の政治ジャーナリストである岩見隆夫氏をお招きし、「政局の展望」と題して御講演いただきました。

現在のねじれ国会の中で、混迷を極めている政局についての大変貴重なお話に、参



岩見氏の話へ真剣に耳を傾ける参加者

第10回山口七夕会交流会開催予定

第10回会員交流会は、下記の日程で開催することを予定しています。現時講師に、林芳正参議院議員(前防衛大臣)をお迎えすることとし、現在、日程の調整を行っておりますが、皆様もご存知のとおり大変御多忙でございますので、詳細が決まり次第、改めて御案内させていただきます。

記

○日 時 平成21年4月3日(金) 18:15～
(変更の可能性あります。)

10周年記念誌作成状況報告

山口七夕会が発足して今年で10周年を迎えることから、昨年(2009年)の定時総会で記念誌を作成することが決まり、皆様へ寄稿文を募集したところ、27名もの方の応募がありました。現在は、印刷業者へ依頼し編集作業を行っているところです。

今後は、校正等を行い、次回市報発送時(3月中旬)には、会員皆様のお手元にお届けする予定ですので、それまで楽しみにお待ちください。

やまぐち知っちゃろ！ ～養殖車えび発祥の地 秋穂～

古くから漁業の町として栄えてきた秋穂地域は、世界で始めて車えびの養殖事業が始まった地でもあります。

親エビを人工的環境で産卵させ、プランクトン生活を経て稚エビにまで育てあげます。その稚エビ(種苗)を大量生産し、配合飼料によって親エビにするという技術を開発したのが藤永元作です。

「車えび博士」と呼ばれた藤永元作は、苦学して東京帝国大学農学部水産科を30歳の時に卒業しました。その学生時代に黄海の海洋調査で大正エビに触れ、台湾総督府の船で南シナ海、シャム湾、マラッカ海峡などを巡り、多くの未知の車エビ属のエビに出会いました。車えびの養殖という夢に生涯をかけるようになったきっかけも、この南方での体験であったと伝えられています。

卒業後、北九州の戸畑に本社があった共同漁業(日本水産の前身)の早鞆水産研究所(天草)に赴任し、翌年には、生簀での産卵・孵化に成功し、車えびの養殖の第一歩を踏み出しましたが、戦争等もあり、研究上の発見が商業生産として軌道に乗るまでには長い年月がかかることとなります。

1963年には秋穂に瀬戸内海水産開発(株)を設立し、廃棄された塩田に目をつけ、そこで車えびの養殖をスタートさせました。出資者には、渋沢敬三(渋沢栄一の孫で、大蔵大臣や日銀総裁を歴任)、五島昇(東急社長)、作家の今東光、大宅壮一、井上靖など財界・文壇のトップクラスの面々が名を連ねました。

しかしながら、ようやく事業として成り立ち始めた1973年に藤永元作は他界してしまいま

す。

現在では、秋穂の車えびはお中元やお歳暮などの贈答品として全国に発送され、広く知れ渡っています。

また、毎年夏には、生きえびを海水浴場の干潟に放流し、合図とともに一斉に手づかみし、何匹獲れたかを競う「えび狩り世界選手権大会」という「えびの町秋穂」ならではのイベントを開催し、国内はもとより、世界各国から多くの参加者で賑わいます。秋には、秋穂地域の振興に多くの貢献をしてきた車えびに感謝し、供養する「えび供養祭」も開催されます。

秋穂地域には、国民宿舎あいお荘をはじめとして、活きた車えびを味わうことのできるお店がたくさんありますので、山口へお越しの際にはぜひ車えびをお召し上がりください。



車えび発祥の地碑



えび狩り世界選手権での様子